

さいたま市長 9月定例記者会見

平成30年9月20日（木曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
 それでは、記者クラブ幹事社のNHKさん、進行よろしく願いいたします。
- NHK 9月の幹事社を務めますNHKです。よろしく申し上げます。
 では、本日の記者会見内容につきまして、市長からご説明をお願いいたします。
- 市 長 皆さん、こんにちは。
 今週初めに、うれしいニュースが入ってきましたので、お知らせをいたしたいと思います。さいたま市の人口が130万人を超えました。
 ご存じのとおり、さいたま市は平成13年5月1日に3市合併をし、約103万5,000人を擁する大都市として誕生しました。その後、政令指定都市へ移行し、また旧岩槻市との合併を経まして、本年9月18日現在の総人口が130万人を突破しました。
 このことは、市民の皆様や事業者、また企業の方々がそれぞれの立場で地域づくりにかかわり、魅力あるさいたま市として市内外から受けとめられているという結果であると思っております。
 政令指定都市に移行してから、15周年の節目の年に、記念すべき日を迎えることができ、市民の皆様と、喜びをともにしたいと思います。今後多くの方々に選んでいただけるように、「住みやすい」、「これからも住み続けたい」と思ってもらえる、そんなまちづくりを進めていきたいと考えております。
 また、モニターにあるように、この130万人突破を記念して、みんながのびのびと暮らし、人口が着実に伸び続けてきたことを表現した「祝いのびのびと人口130万人突破」というキャッチフレーズと、さいたま市PRキャラクターのヌウが人口130万人の壁を突き破って出てくるというイメージのロゴを作成いたしました。
 各種イベント等を活用して、130万人突破をPRしていきたいと考え

ております。

記者の皆さんにも、ご協力をお願いしたいと思います。

市長発表：議題1「区民まつり・埼玉スタジアム2002会場周辺で東京2020大会に向けた気運醸成イベントを実施します」

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

まず、議題の1でございます。区民まつり及び埼玉スタジアム2002会場周辺で実施する東京2020大会に向けた気運醸成イベントについてご説明をしたいと思います。

初めに、さいたま市でのオリンピック・パラリンピックに関する基礎情報について紹介したいと思います。

さいたま市では、東京オリンピック競技大会におきまして、緑区美園にあります埼玉スタジアム2002でサッカー競技が行われます。また、中央区新都心でございますさいたまスーパーアリーナにおきまして、バスケットボール競技が行われることになっておりまして、この2つの競技が開催されます。

2会場での試合数についてでございますけれども、サッカーは男子が準決勝、そして3位決定戦を含めまして7試合、また女子のほうは4試合、合わせて11試合になります。

またバスケットボールでございますけれども、これは男女ともに予選から決勝まで各26試合、合計52試合全部の試合が、このさいたまスーパーアリーナで開催されることになっております。

東京2020大会を契機に、「スポーツのまちさいたま」を国内外にアピールしていきたいと考えております。

また、さいたま市では東京2020大会の契機として国際交流を推進していくため、オランダ王国をホストタウンとして登録しております。また、その取組でございますが、平成28年12月にオランダ空手道連盟と、東京2020大会における事前キャンプに関する協定を締結いたしました。

昨年10月に、桜区の区民ふれあいまつりにおきまして、オランダ空手道連盟の選手を招待して、子供向け空手教室、またさいたま市の空手道連盟との合同練習を行い、交流を深めさせていただきました。

また、今年5月にオランダのウォーキング団体とウォーキングイベントに関する協定を締結しました。このイベントは、2020年の大会期間中に実施する予定となっております。本市の魅力を感じていただき、さいたま市民とも交流を深めてもらえるように準備を進めてまいりたいと考えております。

また、今後も市民レベルでの交流もしっかりとサポートしていきたいと考えております。

それでは、今回の本題に入らせていただきたいと思います。

東京2020大会開催まで2年を切りまして、いよいよ準備が本格的に進んでいる中ではありますが、この大会に向けまして、より一層市民と一緒に大会を盛り上げるために、多くの市民が参加する区民まつりにおきまして、気運醸成のイベントを実施いたします。

10区の区民まつりに出展いたしますのは、さいたま市がサッカーとバスケットボールの会場であることをPRするオリンピック・パラリンピックブースと、それから開催会場の種目にちなみまして、パラリンピック競技でありますブラインドサッカーと車椅子バスケットボールの競技体験ブースをそれぞれ設置させていただきます。これらのブースは、10区全て東京2020大会の公認プログラムにもなっております。

10月6日土曜日の南区を皮切りにして、11月11日日曜日の最終の中央区まで、全ての区で毎週実施してまいります。それぞれの競技に精通している指導者をご用意しておりますので、誰でも気軽に安心して楽しむてもらえると思います。

ぜひ実際の競技を一人でも多くの市民に体験してもらい、競技の楽しさ、また魅力を感じていただきたいと思います。

次に、こちらは埼玉スタジアム2002の最寄り駅であります浦和美園駅で、周辺で行います浦和美園まつりについてでございます。10月6日土曜日に開催をする予定でございます。出展内容としては、さいたま市がサッカーとバスケットボールの会場であることをPRするオリンピック・パラリンピックブースと東京五輪音頭の演舞を行います。こちらの出展も、東京2020大会の公認プログラムとして位置づけられております。

東京五輪音頭は午後2時30分から午後3時までの30分間行います。

場所は浦和美園駅前ステージ、本市の職員が東京五輪音頭を優しく、またわかりやすくレクチャーをしていきます。ぜひ多くの来場者に参加をしていただきまして、踊っていただき、また楽しみながら東京2020大会への気運を高めてほしいと思っております。

最後に、埼玉スタジアム2002周辺で行いますさいたま市主催の気運醸成イベントについてご紹介をしたいと思います。このイベントにつきましても、東京2020参画プログラムの認証を受けているものでございます。10月6日土曜日から8日月曜日まで、この3日間にわたって開催いたします。場所は、イオンモール浦和美園でございます。

内容は、埼玉スタジアム2002に近い会場であることを考慮して、サッカー中心のコンテンツを用意しております。浦和レッズOBであります鈴木啓太氏や、さいたま市を主な拠点として活動しておりますブラインドサッカーチームに所属しており、ブラインドサッカー日本代表強化指定選手でもございます加藤健人選手などを招きまして、トークショーを開催いたします。

また、さいたま観光大使であります球舞などのステージパフォーマンス、オリンピック・パラリンピック競技体験やキックターゲットなどの参加体験型のコンテンツを用意しております。そのほか、小さなお子様でも楽しめるワークショップも多数ご用意しております。

また、イベント開催初日には記念セレモニーを開催いたします。このセレモニーではありますが、11時20分から11時40分までになります。ロサンゼルス大会金メダリストであり、本市の広報番組「のびのびシティさいたま市」の司会もやっていたおりました森末慎二さん、さいたま観光大使であります村田綾さん、埼玉県内では初めて東京2020マスコットがお目見えすることになります。

このような東京2020大会を体感できるイベントに、多くの市民にぜひ参加していただきたいと考えております。また、競技体験等を通じまして、東京2020大会を知っていただきたいと思っております。

東京2020大会を身近に感じ、多くの市民の皆さんに、この大会を何らかの形でかかわっていただきたいと思っております。

市長発表：議題2「市主催による『さいたま市伝統産業フェア』を初めて開催します」

続きまして、議題の2でございます。「市主催によりますさいたま市伝統産業フェアを初めて開催します」についてご説明をいたします。

初めに、さいたま市伝統産業及びさいたま市伝統産業事業所についてご説明をさせていただきます。本市では、平成20年度からさいたま市伝統産業と、さいたま市伝統産業事業所を指定して、PRや販路開拓を実施しています。

さいたま市伝統産業とは、伝統的な技術や精神に基づきまして、本市固有のものとして発祥し、現在もその伝統性を維持しながら経済活動を行っている産業という定義をしております。岩槻の人形、大宮の盆栽、浦和のうなぎを指定しております。

また、さいたま市伝統産業事業所とは、3つの伝統産業に属する事業所をはじめ、御宮や組紐などの伝統的な工芸技術を継承する事業所、また地酒や和菓子など、さいたま市の地域特性と深い関連のある事業所のことを指して、現在138の事業所を指定しております。

それでは、この伝統産業フェアについてご説明をさせていただきます。

本年度、伝統産業及び伝統産業事業所の指定開始から10年の節目を迎えたことを記念して、改めてその存在と魅力をPRするために、さいたま市伝統産業フェアを市の主催により開催いたします。期日は、10月20日土曜日から21日日曜日の2日間にわたって開催いたします。会場は、浦和コルソの1階のコルソ通りで開催いたします。

内容は、さいたま市伝統産業事業所による展示及び販売になります。このイベントを通じまして、さいたま市の伝統産業と伝統産業事業所の存在と魅力を広く市民に知っていただきたいと考えております。

それでは、出店事業所についてご説明をしたいと思います。今回は、岩槻の人形、大宮の盆栽、浦和のうなぎの3つの伝統産業が一同に会する大変貴重な機会でもございます。

岩槻の人形の展示や販売、また大宮の盆栽の展示、浦和のうなぎのうなぎ弁当の調理・販売が事業所により行われます。これらの産業のほかにも、七宝焼き、筆、和菓子、清酒の販売がそれぞれの事業所により行われます。

以上のように、さいたま市には多様な伝統産業事業所があり、地域に根づいて活動しております。このような伝統産業と事業所の存在と魅力を広く市民に知ってもらい、さいたま市の魅力を伝えてまいりたいと考えております。

また、オリンピック・パラリンピックに向けまして、議題1で説明をした啓発イベント「さいたま市から発信！2018～さいたまにオリンピックがやってくる～」におきまして、岩槻地区の事業者の製品を展示する「さいたま市伝統産業・岩槻フェア」もあわせて実施をいたします。

今後もオリンピック・パラリンピックをはじめ、市内大型イベントと連携をしながら、海外から訪れる外国人観光客はもちろん、市民の皆様に対しましても、この機会に市内の伝統産業、また技術の魅力を伝えてまいりたいと思います。

私からの説明は以上でございます。

その他：人口130万人突破について

- NHK 市長からのご説明について、各社さん質問をお願いします。
- 朝日新聞 朝日新聞ですが、人口の130万人突破についてお聞きいたします。
順調に人口が伸びてきていることだと思いますけれども、さいたま市がそういった人口がどんどん増えてきている要因、この政令市になって以来だけじゃなくて、以前からもそうだと思うのですけれども、人口が伸びていることの要因及びそれについての今後の課題、長期的に見たときに、さいたま市がどういう問題をこれから抱えていくことになるかというあたり、その辺をお聞かせいただきたいと思います。
- 市長 それでは、ご質問にお答えしたいと思います。
まず、130万人を突破したことの要因でございますけれども、さいたま市誕生以降、自然増と社会増が続いてきているという状況でございます。ここ数年、毎年1万人程度の人口が増加しております。本市の人口が120万人を超えた平成19年と比べまして、市内全区で人口が増加をしているという状況がございます。特に人口増加数は南区が最も多く、ついで浦和区、緑区の順となっております。また、増加率では緑区が最も高く、ついで浦和区、南区の順となっております。
また、転入者数の約6割が20代、30代が占める結果となっております。

して、あわせてゼロ歳から4歳の転入者数が多いことから、おそらく子育て世帯の転入が多いのではないかと予想ができます。

さいたま市が多くの方々に選ばれているということについては、大変喜ばしいことであると考えております。

また、これまでさいたま市が誕生して以降、先人の皆さんが築いてきた礎を受け継ぎながら、交通の要衝、また災害に強いという2つの優位性と、教育あるいは環境、健康・スポーツといった4つの強みを生かしたさまざまな施策や、東日本の中枢都市、また上質な生活都市の実現に向けた各種施策に取り組んできた一つの成果であると考えております。

特に市民の皆さんや企業の方々に、長年にわたるご尽力、またご協力をいただいた結果、こうした130万人突破ということにつながってきたのではないかと考えております。引き続き、多くの皆さんに選んでいただき、そして住みやすいまちをつくっていきたくと考えております。

また、今後の予想される課題等についてでございますけれども、現状としては自然増、社会増とも続いておりますが、自然増についてはかなり数は少なくなってきておりまして、そういう意味では、一つは自然増、要するにさいたま市に現状として住んでいる皆さんが子供を産み育てやすい、そんな環境をつくり、また子育てを楽しみと感じていただける環境整備をしていく、そして自然増にもつなげていくということが大変、重要なテーマではないかと考えております。

また、社会増については、ここ3年ぐらいの状況を見ますと、(年間)1万人近い人数が増えています。(毎年の)年少人口そのもの(の増加人数)は大きく増えているわけではなく、ほぼ横ばいでありまして、やはり認可保育所をはじめとする子育て支援についてのニーズが非常に高いと思っておりますし、引き続き持続可能な成長発展ができるまちとしてやっていくためには、そうしたインフラ、あるいはまちづくりということもあわせてやっていながら、引き続き選んでいただけるまちづくりを進めていきたいと思っております。

人口の推計では、2030年をピークに減少局面に入ってくるというような推計がなされておりますので、私たちとしては大きく右肩上がりという時代は過ぎ去ったという認識をしておりますが、少しでもその人口のピ

ークを先延ばしし、また急激な高齢化の影響をできるだけ緩やかなもの
しながら、持続可能なまちづくり、あるいは市民サービスといったものを
進めていく必要があると考えております。

○ 読売新聞

読売新聞と申します。

人口なんですけれども、増加率でいうと全国でどれくらいの順位になる
んでしょうか。

○ 市長

年度によって、恐らく違いが出てくると思うのですけれども。それは、
後でご指定いただいてデータとして。(会見後資料提供：指定都市中3位)

○ 時事通信

人口の関係で関連するのですけれども、4ページの図4にありますよう
に、緑区等は人口増加率が非常に高いかと思うのですけれども、一方で岩
槻区であったり桜区という部分は余り増加率も高くないのかなと思ってい
るのですけれども、そういったところの格差みたいなものの解消というの
はどのように考えているんでしょうか。

○ 市長

現在さいたま市の都市計画としては、2都心4副都心を核にしながら多
核ネットワーク型の都市をつくっていかうという方針で進めています。

2都心というのは、大宮駅とさいたま新都心周辺、浦和駅周辺、これが
2都心です。4副都心は、日進・宮原地区、武蔵浦和地区、美園地区、岩
槻駅周辺地区の4つを副都心という位置づけにして、この2都心4副都心
をつなぎながら、ネットワークさせながら上質な生活都市をつくっていか
うという方針で進めております。

今ご質問の桜区や岩槻区については、現在の都市計画上、市街化調整区
域が非常に多いということがございまして、その中で今後私たちとしては、
全部が同じ顔の地域をつくっていくというよりも、やはり都心としてのま
ちが形成されていくエリアと、自然と共生していくエリアとが、うまくバ
ランスよくつながっていくことが望ましいだろうと考えて、まちづくりを
進めています。

**幹事社質問1：さいたま国際マラソンの申し込み状況
について**

○ NHK

それでは、幹事社として代表質問させていただきます。大きく3点です。

まず、1問目です。先日さいたま国際マラソンのフルマラソンの募集を
締め切られましたけれども、懸案されていた女性や海外からのランナーの

申し込み状況を教えてください。

また、今回定員に達した要因をどのように分析するか教えてください。

○ 市長

それでは、幹事社のご質問にお答えをしたいと思います。

まず、さいたま国際マラソンのことについてご回答していきたいと思いますが、第1回の組織委員会におきまして、女性の参加率を上げたいという日本陸連会長からのご意見もございまして、事務局でもその課題に対する取組として、今大会から新たに女子ビギナーの部を設けさせていただきました。

その結果、女性ランナーの申し込み状況は、フルマラソン一般の部が1,737人、またフルマラソン女子ビギナーの部が527人、合わせて2,264人の申し込みをいただきました。

前回の女性ランナーの申込数は1,804人でございますので、昨年を460人上回ったということになります。

また、海外からの申し込み状況は109人ございまして、昨年と比べまして、1.8倍の申し込みになったということになります。

定員に達した要因でございますけれども、大会終了後に主催5者で分析していくことが、これから重要になると思いますけれども、まず一つ言えることは、第3回、昨年の大会におきましてランナーサービスを強化して、参加したランナーの皆さんから大変高い評価をいただくことができたということ、それから今年から大会前日の事前受付を廃止して、手続を簡略化したことなどが挙げられると考えております。

また、女子ビギナーの部の新設など、新たな取組がランナーから評価を得たものと考えております。

このほか、今までよりも広報の範囲を拡大して、市の内部でも連携しながら、市内や国内のみならず、海外に向けたPR活動というものも取り組んできたところでありまして、大会の広報を強化したこともその要因の一つではないかと考えております。

幹事社質問2：さいたま国際マラソンの運営について

○ NHK

2問目です。マラソンの運営に関しては、市から2億6,000万円が負担金として支払われていますけれども、今後の大会運営の方法ですとか負担金を減らすための試みですとか、今後の大会に向けて何か検討してい

ることがあれば教えてください。

- 市長 さいたま国際マラソンにつきましては、主催5者による組織委員会をつくって行っております。主催5者で役割を分担し、また協議を行いながら運営しているという状況がございますので、その中で議論しながら、ランナー、あるいは協賛企業やこの大会にかかわる全ての関係者にとって、まず魅力ある大会に育てていくことが重要だと考えております。

このような中で、前回からマラソン・グランド・チャンピオンシップ・シリーズに位置づけられるなど、大会の価値は向上してきていると考えております。

また、今大会から女子ビギナーの部を新設しましたが、この結果を含め、より多くの方にさいたま国際マラソンで走ってよかった、また走ってみたいと思っただけの大会にするための取組は、どのようなものになるのかということについて、主催しております5者でしっかりと検討していきたいと考えております。

また、運営方法、あるいは負担金については、これまでも主催者間で協議してまいりましたが、今後の大会についても、今大会の開催結果を踏まえながら主催者間で協議することは必要であると考えております。現段階では12月開催の大会の成功に向けて、まずは主催者一丸となって取り組んで、そしてランナーの方々に喜んでいただくことが一番であると思っておりますので、まずそれをしっかりとやった上で、また来年以降の取組、運営方法、あるいは負担金の問題などについても議論していきたいと思っております。

幹事社質問3：西日本の台風と北海道の地震に関する さいたま市の対応について

- NHK 次ののですけれども、先日の西日本の台風ですとか北海道の地震に関連してなんですけれども、さいたま市からは現在どのような支援を行っているかということをお願いいたします。

また、最近の相次ぐ震災を受けて、さいたま市で具体的に対策を見直されたことすとか追加されたこと、何か改善したことがあれば教えてください。

- 市長 まず、質問にお答えする前に、9月に入りまして、近畿地方を中心に大

きな被害をもたらした台風第21号、さらに6日未明に発生した北海道胆振東部地震によりましてお亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げます。

さらに、被災された方、また余震が続く中で不安な避難所生活を余儀なくされている方々に心よりお見舞いを申し上げたいと思います。

本市の被災地への支援対応としては、台風第21号におきましては被災地からの支援要請がなかったことなどから、支援対応については行っておりません。

北海道胆振東部地震につきましては、9月7日の時点で、必要な支援は北海道庁によって対応ができていくということをごさいます、北海道外からの職員派遣の必要はないという国の判断もございまして、さいたま市においては職員の派遣はしないということになっておりますが、被害が長期化をして、支援要請があった際には、できるだけ支援をしていきたいと思っております。引き続き情報収集などに努めていきたいと考えております。

最近の相次ぐ震災を受けました対策の見直し等につきましては、大阪府北部を震源とする地震による被害を踏まえまして、小中学校のブロック塀等について、現行の建築基準法施行令に適合しないブロック塀等を撤去して、新たな塀が設置されるまでの間、仮設の塀を設置することとさせていただきます。

また、高さ2.2メートルを超えるブロックのサッカー用シュート板を部分撤去することといたしました。

また、通学路に関しましては、毎年度安全点検を実施しておりますが、ブロック塀等の緊急点検を実施いたしまして、問題のあったブロック塀等の位置を通学路ヒヤリハットマップに記入をしまして、通学路における危険箇所を児童生徒に確認をさせまして、安全指導の徹底を図り、あわせて必要があれば通学路の変更を検討しております。

さらに、民地に設置をされましたブロック塀への助成制度につきましては、国の平成31年度の概算要求にも、危険なブロック塀等の除去、改修等の支援を行うことが示されたことなどもございまして、本市としても国の支援内容、あるいは他市の事例なども十分に研究して、制度の創設に向

けた検討を現在行っているところでございます。

そのほか地震対策として、来年1月に家具転倒防止の啓発キャンペーンを市内のショッピングモールで開催をする予定で、家具の配置の工夫、また家具の固定化により、まずは住宅内でけがをしない「自助」の啓発を行う予定となっております。

私からは以上でございます。

- NHK 代表質問の説明に関して、質問がある社はお願いします。よろしいですか。

それでは、各社さん、何か質問がある方お願いします。

その他：街路樹の管理について

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

ちょっと先ほどの質問と一部関係するんですけど、台風21号についてお伺いいたします。

今月初めに本州に上陸しまして、すごい被害がありまして、さいたま市内でも倒木が29件あったというご報告をいただきました。中央区では国道463号線のケヤキが道路に倒れて、あわや大惨事という事態がありました。市内の街路樹の維持管理体制について教えていただけますでしょうか。

- 市長 それでは、ご質問にお答えをしたいと思います。

ご指摘のとおり、台風21号の際に、さいたま市内において倒木がございました。倒木の被害については、街路樹が10件、民地の樹木が12件、公園などの公共施設で7件ということで、合計29件の倒木がございました。

その中で、街路樹の管理方法についてでございますけれども、年間を通じまして北部建設事務所管内が22地区、南部建設事務所管内が15地区、合計で37地区に分けまして、造園業者に管理を委託しております。

作業内容は、中高木の剪定、また低木の刈り込み、また植樹帯の除草、歩道の清掃、また樹木に異常があれば委託業者からの報告を受けることになっております。

また、職員による道路パトロールは、主に道路陥没などの発見、あるいは落下物の回収でございますけれども、街路樹についても異常があれば、

街路樹の担当職員に報告をすることになっております。

特に、埼大通りのケヤキ並木については、昭和48年から53年にかけて整備されたものでありまして、40年余り経過をしている状況になっております。そういう意味では、今年度樹木医による健全度、こういったものをしっかりと診断を行って、必要に応じて伐採や保全を行っていく必要があると考えており、それを進めていくつもりでございます。

現在も職員による目視の緊急点検行っておりまして、倒木のおそれがある樹木があれば早期に伐採を行っております。今回残念ながら倒木による事故が起こってしまいましたけれども、今後このようなことがないように、管理を十分にしていきたいと考えております。

○ 埼玉新聞 私も実は直後に、南部、北部建設事務所に確認しまして、道路維持課の皆さん、すごい夜遅くまでしっかり対応されたんですけども、先ほどおっしゃった樹木の健康度チェック、今年度に行うということなんですけれども、これはもう開始しているということでしょうか、それともこれからやるということでしょうか。

○ 事務局 街路樹の診断業務につきましては、もう発注が済んでおり、今準備をしております。今後樹木医による目視による点検を行いまして、異常が見られる木につきましては音波診断を行い、調査して危険があれば、順次、(伐採などの) 対応をしていきたいと思っております。

その他：災害対策について

○ NHK 災害に関してもう一点よろしいですか。今回の災害では、例えばスマートフォンの充電施設が足りないとか、外国人の方への情報提供をどうするかということがかなり課題になりましたけれども、さいたま市として何か用意されていることですか、何かありますか。

○ 事務局 現在さいたま市につきましては、ホームページで中国語、韓国語、英語の3カ国語の対応をしております。Yahoo!防災アプリも外国語には対応しておりませんので、今後その辺の多国語の対応のほうを検討してまいりたいと考えております。

○ NHK スマートフォンの充電とか災害時の電源の充電施設のほうは特に用意されていないんですか。

○ 事務局 現在避難所におきまして、ワイファイの設置までは対応を考えておるの

ですけれども、充電器までは、災害の規模に応じまして、対応ができるかどうかというのは、現時点では全て対応するのは難しいかなと考えておりますので、今後検討させていただきたいと考えています。

その他：ふるさと納税について

○ 朝日新聞

ふるさと納税についてお伺いします。

ふるさと納税の返礼品の競争のことは、先日も国のほうも是正方針を示しましたけれども、実際さいたま市でも財源不足ということが言われている中で、このふるさと納税による減収というのもばかにならないと思っておるんですけれども、例えば過去5年ぐらいで、ふるさと納税による減収がどのぐらいあったのか教えていただきたいのと、それからふるさと納税に対する、市長としてどういう方向、どういうやり方が望ましいと考えるのか、そのあたりをお聞かせください。

○ 市長

まず、ふるさと納税についての市民税からの控除額、減収分について申し上げますと、平成27年度では約1億6,000万円、28年度では約9億円、平成29年度では1億6,000万円、平成30年度では2億9,000万円でございます。

それから、ふるさと納税についての見解でございますけれども、ふるさと納税制度は、地方で生まれ育った方がふるさとに貢献したいという思いを税制度の中で実現をしようという制度であると認識をしております。高額な返礼品の送付を強調して寄附を募集するということは、制度の趣旨から逸脱をしていると考えております。

本市としては、総務省からの要請もございますけれども、(返礼品は)寄附額の3割以下にしております、物に限らずいろいろなサービスであったり、例えばさいたまクリテリウムのサポーターになることであったり、さいたま国際マラソンに参加をすることであったり、そういったやり方を進めて、交流人口の拡大につなげていこうというような、そういった返礼品を強化し、あわせて本市の魅力を知っていただくものにつなげていこうと考えております。

いずれにしましても、やはり過度な返礼品競争みたいなものになってはいけないと思っております、しっかり本来の趣旨に合った形で行われることがより望ましいと思います。

○ 朝日新聞 ちなみに逆に言えば、さいたま市がそうやって設けている返礼ということにひかれてかどうかわかりませんが、さいたま市へのふるさと納税額というのはどの程度あるんですか。

○ 市 長 それでは、申し上げますと、平成27年度は件数327件、987万7,736円、28年度では361件で2,491万9,397円、それから29年度では302件で1,711万8,752円、平成30年度、まだこれは8月末の途中現在でございますけれども、99件で473万2,732円です。

平成30年度、少し仕組みが変わりまして、市民には基本的には（返礼品の送付）ができないということに、さいたま市民は、（返礼品の送付）対象にならないということでございます。

その他：自民党総裁選について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞でございます。

自民党の総裁選挙についてお伺いします。今まさに国会議員による投票が行われているかと思うのですが、今回の総裁選につきまして市長の所感、受けとめを教えてくださいませんか。

○ 市 長 ちょうど今まさに投票が行われているところだろうと。ということでありましてけれども、自由民主党の総裁を決める選挙であります、与党第一党のリーダーを決めるということが、事実上、内閣総理大臣を決める選挙であるということから、候補者の主張については私どもも注目をしてきたところでございます。

本格的な人口減少社会に入った日本のかじ取りについて、また経済成長政策、あるいは財政再建、近年頻発をします危機管理・防災対応など、山積する課題についてどのように取り組んでいくのかということについては、両者のいろいろな議論について注目をしているところであります。

その中で、今ちょうど結果だけ手元に届きましたけれども、安倍晋三候補が553票、石破茂候補が254票ということで、安倍晋三候補が新総裁に、3期目の新総裁に選ばれたということでございますので、自由民主党総裁としてだけでなく、また引き続き内閣総理大臣ということになるかと思っておりますので、日本国のかじ取りについて、しっかりと頑張っていたきたいというエールを送らせていただきたいと思います。

- 埼玉新聞 地方との関連という観点では、総裁に期待すること、どんなことでしょうか。
- 市長 やはり2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催される中で、かなり東京を中心としたところに、積極的な、これは民間も含めて、投資が行われている中でありますけれども、この東京オリンピックでの効果がしっかりと地方の都市にまできちっと波及していくような取組を、ぜひしていただきたいと思っております。
- 東京だけではなくて、日本全体がしっかりと潤っていくように、経済の活性化につながるような、そういった施策を意識して、まさに地方もしっかりと発展できるような施策を推進していただきたいと思っております。
- NHK ほかよろしいですか。
- ありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
- なお、次回の開催は10月16日火曜日、13時30分からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。
- ありがとうございました。

午後2時16分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。